

2024 年度 事業報告書

自 2024 年 4 月 1 日
至 2025 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目次

概況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	2
3. 事業別概況	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	5
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	5
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	6
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	6
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	6
II. 普及事業（公益目的事業 2）	7
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	7
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）	8
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	8
4. 広報（公益目的事業 2.4）	10
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	10
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	11
1. 国際競技会主催（公益目的事業 3.1）	11
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	11
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	11
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	11
IV. 収益事業等	12
1. 公認（収益事業 1）	12
2. 商品販売（収益事業等 2）	12
V. 法人・管理部門	13
1. 会員・会友	13
2. 理事会・会員総会	14
3. 組織運営	15
4. 常設委員会・特別委員会	15

概 況

1. はじめに

2024 年度は新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の長期に渡る影響からは脱したものの、高齢化による会員会友数の減少傾向の深刻さを感じる年となった。会員会友数の合計は 2024 年度で 219 人減少し 2025 年 3 月末時点で 5,870 人となり 6,000 人を割り込んだ。コロナの期間の年間 500 人程度の減少に比べれば、ここ 1～2 年は減少のペースが落ち着いてきたとも言える。しかし、B 会友の人数が A 会友の約 3 倍に達したことから、70 歳以上の会員会友の割合が非常に高くなっていることが懸念される。

セクショナルの公認料は前年比約△3.7%に相当する約 300 万円の減少となり、会員会友数の減少の割合とほぼ同様の結果となった。いっぽう、JCBL 主催競技会収入は前年比約 2.6%増の約 60 万円の増加となったのは明るい材料であった。

2024 年度の全体の収支は約 100 万円の黒字決算となった。収入では JCBL 主催競技会収入が持ちこたえたことと、職員が 1 名減った状態が夏まで続いたことによる人件費の減少があり、約 400 万円の赤字予算から改善された結果となった。ただ、会員会友数の減少傾向があり、セクショナルの公認料を中心に長期的には収入の減少が続くことが予想される。

そういった中、2024 年度は会友の年会費の見直しを決定し 2025 年 4 月より実施することとした。さらに、JCBL の事務局の家賃費用の削減を目的に、約 30 年間にわたり四ツ谷駅周辺に構えていた事務局の移転の方針を決定した。会友の皆様にはご負担をおかけするが、長期的な収支構造の立て直しに取り組んでいきたい。

2024 年度はユースプレイヤー国際競技会での活躍が目立った。第 9 回 APBF コンgress のユース部門で上位に進出し世界選手権の出場権を獲得すると、第 8 回ユースオープン選手権では世界の強豪国を相手に大いに健闘した。ユースプレイヤーの国内試合での成績も目覚ましく、来年度は U21、U26 に加えてガールズ部門での活躍が期待される。

日本代表は 2024 年 10 月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催された第 16 回ワールドブリッジゲームズにウィメン、ミックス、シニア代表の 3 チームが参加した。ウィメン代表が予選ラウンドを通過し上位 16 チームのノックアウトステージに進出した。

普及活動では 2024 年度は新聞やラジオといったメディアの活用に加え、SNS の頻繁な更新に活用を力を入れ、ブリッジの知名度向上に取り組んだ。7 月に浜松で行われた地域対抗戦全国大会では体験教室を合わせて開催した。

2. 連盟全体

2024 年度は以下の 3 点を目標に掲げた。

(1) 収支の改善

「2024 年度はユース代表の派遣費を削減すると同時に公益財団法人森村豊明会よりユース代表の派遣費の助成金をいただくことができ、ユース代表派遣の部分で大いに改善された。その結果 2024 年度の総収入は、年会費および主催競技会収入の合計で 300 万円程度減るもののその分を助成金で補い、2024 年度予算はトータルで 2023 年度並みの数字を見込んだ数字となった。2024 年度は収支改善の検討を進め、2025 年度以降の普及事業費の回復につなげていきたい。」

公認料の 300 万円程度の減少は想定内であった。JCBL 主催競技会収入が持ちこたえ、職員 1 名減少の期間が 7 月まで続いたことから人件費が減少した。402 万円の赤字予算に対して約 99 万円の黒字決算となった。

(2) 普及活動の活性化

「近年は SNS の活用や地方との連携を深めており、社会人を対象とした体験教室および入門講習会を一部実施している。コロナの影響も低下しつつあるので、ブリッジの新規体験者の獲得を増やしていきたい。口コミで紹介された新規体験者は継続率が比較的高めであるとの声があり、口コミを活性化する試みを実施する。」

新聞やラジオといったメディアの活用、および SNS による情報発信に取り組み知名度向上には一定の成果をあげた。また、優待券進呈キャンペーンを体験参加者にも拡大したことで体験教室および入門講習会への知人の紹介は増加し、口コミの活性化につながった。

(3) 管理部門の再構築

「近年は事務局職員の世代交代を進め、職員 5 名の体制を定着させたところであったが、2023 年度に若手職員 1 名が退職した。その補充として 2024 年度は職員 1 名の新規採用を行うとともに、新職員の育成と定着を目指す。」

2023 年度に退職した職員 1 名を補うため職員の募集を行い、8 月に新規職員 1 名を採用し育成を開始した。職員の体制の再構築に努めた。

3. 事業別概況

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

2024 年度は予定していた JCBL 主催ナショナル 11 競技会、同リジョナル 5 競技会のうち、すべての競技会を開催することができた。

【競技会の向上】

1 ラウンドのボード数や対戦方法を見直しフライト数をなるべく多く維持した。日本リーグの参加者の要件の緩和を継続した。

【JTOS】

JTOS の保守を行った。各ブリッジセンター、ブリッジクラブの主催競技会の運営のサポートを行った。

【ディレクター育成】

2025 年 2 月 23 日（金）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター講習会を開催した。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

プレスリリースの発信、X(旧 Twitter)、facebook による情報提供を行った。ラジオ NIKKEI 第 1 の「小塚アナの褒めタイム」に柳澤彰子理事が出演しブリッジの紹介を行った。

【入門講習会支援】

首都圏を中心とした全国の体験教室の告知広告を 2024 年秋および 2025 年春に行った。シニア層をターゲットにした媒体の選定を行った。2024 年度は優待券進呈キャンペーンの対象に体験教室への参加者を追加した。

【子どもおよびユース】

橋之介くらぶは四谷および大船で開催した。ユースの年末講習会を開催した。合宿の補助は 2024 年 9 月および 2025 年 3 月に行った。

【大学でのブリッジ授業の開講】

2024 年度は早稲田大学（後期）、東京大学（前期）、青山学院大学（前期）、明治大学（前期、後期）、大阪大学（後期）、京都大学（前期）で実施され、各大学の単位取得者数はそれぞれ、21 名、12 名、46 名、94 名、22 名、21 名であった。

【京阪神の普及活動】

名古屋、京都、大阪における活動はカルチャースクールの重要性が高く、各スクールと連携して新規プレイヤーの育成を行った。

【その他各地域の普及活動】

福岡、仙台の普及活動への協力を行った。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

【第 16 回ワールドブリッジゲームズ】

10 月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催された第 16 回ワールドブリッジゲームズにウィメン、シニア、ミックス代表の 3 チームを派遣した。ウィメン代表は予選ラウンドを通過し上位 16 チームのノックアウトステージに進出した。

(4) 収益事業

① 公認事業（収益事業 1）

【公認事業】

ブリッジセンターの平日セクショナルの開催条件の緩和を 2024 年度も継続した。

② 商品販売事業（収益事業 2）

【在庫管理や販売方法などの業務の見直し及び効率化】

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を行った。

(5) 管理部門

【新入会無料キャンペーン】

2014 年度から行っている新入会無料キャンペーンの利用者は、無料期間終了後も十分な継続率であると考えられ、新入会キャンペーンを今後も継続する。

【事務局】

8 月に新規職員 1 名を採用し育成に取り組んだ。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

① 主催競技会

- 2024 年度は以下の競技会を主催した。
- 朝日新聞社杯を World Bridge Tour のランク D の国際競技会として開催した。同大会には中国、香港、台湾、韓国、シンガポールから 10 チームが参加した。

競技会名	日 程	開催 日数	場 所	参加 卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 20、21 日	2 日	玉川高島屋 S・C	27 卓	27 卓
全日本地域対抗選手権 （関東予選）	5 月 11、12 日	2 日	四谷 BC	13 卓	18 卓
藤山杯	6 月 29、30 日	2 日	四谷 BC	26 卓	25 卓
全日本地域対抗選手権 （全国大会）	8 月 3、4 日	2 日	アクトシティ浜松	26 卓	26 卓
外務大臣杯（予選・決勝）	8 月 24、25 日	2 日	四谷 BC	16.5 卓	13 卓
高松宮記念杯	9 月 14、15、16、 21 日	4 日	四谷 BC	31 卓	40 卓
全日本女子ペア選手権 （予選・決勝）	10 月 5、6 日	2 日	四谷 BC	15 卓	16 卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	11 月 2、3 日	2 日	四谷 BC	20 卓	18 卓
ブルーリボン杯	12 月 22 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/ 大阪 BC	50.5 卓	56 卓
レッドリボン杯	12 月 22 日	1 日	四谷 BC/大船 BC	35.5 卓	13.5 卓
朝日新聞社杯	1 月 11～13 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS/ 高田馬場 BC	85 卓	68 卓
2) 日本リーグ					
1 部	前期：6・7 月	4 日	高田馬場 BC	16 卓	16 卓
2 部	後期：11・1 月	4 日		24 卓	24 卓
3) リジョナル競技会					
柳谷杯	4 月 6、7 日	2 日	四谷 BC/ 高田馬場 BC	61 卓	51 卓
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/ 名古屋 BC/大阪 BC	60 卓	64.5 卓
井上杯（予選・決勝）	5 月 25、26 日	2 日	四谷 BC	11 卓	15.5 卓
井上歌子杯	5 月 26 日	1 日	四谷 BC	20 卓	21 卓
渡辺杯	2 月 22、23 日	2 日	四谷 BC	23 卓	27 卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11 月～3 月		各会場	4 卓	6 卓

- 地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 4 競技会 11 チームと、ペア戦 3 競技会 13 ペア、補助総額は 153 万円。

。

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

2024 年度は以下の事業を実施した。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行った。

② 競技会運営環境の整備と維持

- コロナの対応のためテーブル数を調整して、会場の収容人数を減らし換気を徹底した。1 ラウンドのボード数や対戦方法を見直しフライト数をなるべく多く維持した。各競技会で体調不良者が出たときに安心してキャンセルができるように各種規定を設けた。
- パシフィコ横浜に預けていたブリッジテーブルを引き取り一般プレイヤーに送料実費にて譲ることにした。

③ 競技委員会

- 山後秀幸理事を委員長として以下の 13 名が委員として活動した。
委員：寺本直志、ロバート・ゲラー、浅越ことみ、石橋瑞己、齋藤千鶴乃、桜井雅子、
正村祐一、山田和彦、吉田正、仲村篤志、波多江隆児、宋逸寒、久富健史
- 定例委員会を 6 回開催した。

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

2024 年度は以下の事業を実施した。

① ディレクター講習会

2025 年 2 月 24 日（月）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会を開催し、初回受講者 8 名を含む 13 名が受講した。

② ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 11 名、セクショナルディレクター 3 名を承認した。

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを開催した。

① 文化・教育関連イベント出展

霞ヶ関子ども見学デー、および春のキッズフェスタ 2024 に体験教室を出展した。

② 子ども向け体験イベント

・ 橋之介くらぶ体験イベント

大船 BC および四谷 BC の 2 会場で橋之介くらぶイベントを 2024 年 4 月～2025 年 3 月に開催した。小学生から高校生及びその保護者にミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供し、ブリッジの認知度・イメージの向上を図るとともに将来のブリッジ界を担う若いプレイヤーの育成に取り組んだ。

橋乃介くらぶは 2024 年度をもって休止とし、2025 年度は大船 BC では毎月第 1 日曜の大船ファミリーブリッジで、四谷 BC では月 1 回の体験教室で継続していく。

年間開催実績

事業名	実施場所別回数		実施時期	参加人数 (合計)
	四谷 BC	大船 BC		
体験／入門／練習会				
体験教室	9	4	4～3 月	37 名
橋之介道場	2	6	4～3 月	18 名

・ 橋之介くらぶ運営

2024 年度の橋之介くらぶへの新規入会者数は 6 名（2023 年度 3 名）、年度末時点での会員数は 59 名（同 67 名）、各種イベントへの延べ参加者数は 55 名（同 32 名 ※ジュニアのみ）であった。

会報橋之介くらぶコーナー・ウェブサイトの子ども向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った。

A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

2023 年度の代表選手及び 2024 年度代表候補登録者を対象に、講習会、国内競技会参加、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の競技会（高松宮記念杯）の参加費を助成した。

ユース育成プロジェクトの 2024 年度の登録者数は 75 名（前年比 14 名増）だった。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

2024 年度は第 9 回 APBF コングレス、および世界ユースオープン選手権に U21、U26 の各ユース日本代表を派遣した。

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

8 都道府県およびシンガポールの教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、公民館、ブリッジセンター、ブリッジクラブで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	174 名	10 件	¥156,840
群馬	35 名	3 件	¥36,000
埼玉	22 名	1 件	¥56,440
東京	285 名	53 件	¥440,780
千葉	2 名	1 件	¥7,080
山梨	7 名	1 件	¥12,080
長野	7 名	1 件	¥9,000
神奈川	174 名	18 件	¥231,630
福岡	59 名	6 件	¥64,660
海外	7 名	1 件	¥18,000
合計	772 名	97 件	¥1,032,510

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

4 都道府県及びシンガポール、クルーズで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費のアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	41 名	4 件	¥509,500
東京	102 名	15 件	¥694,328
神奈川	50 名	4 件	¥530,630
愛知	15 名	4 件	¥161,620
クルーズ	170 名	3 件	¥458,000
海外	4 名	1 件	¥37,920
合計	382	31 件	¥2,391,998

- カルチャー講座助成

2 都府県で開講されているカルチャースクール講座 31 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
東京	214 名	26 件	¥839,132
大阪	20 名	5 件	¥64,920
合計	269 名	30 件	¥904,052

• 地方活性化活動（地方クラブ支援）

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

• 東京大学ブリッジ講座（19 年目） 講師：浅井潔

講座概要： 前期 14 回、2 単位

実施場所： 東京大学駒場キャンパス(オンライン)

支援内容： アシスタント 2 名の派遣

結果： 単位取得者合計 12 名

• 早稲田大学ブリッジ講座（16 年目）

講座概要： 後期 15 回 講師：並木亮

実施場所： 早稲田大学

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者 21 名

• 青山学院大学ブリッジ講座（14 年目） 講師：島村京子

講座概要： 前期 15 回

実施場所： 青山学院大学

支援内容： 講師及びアシスタント 3 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者 46 名

• 明治大学ブリッジ講座（11 年目） 講師：清水映樹

講座概要： 前期 15 回 後期 15 回

実施場所： 明治大学中野キャンパス

支援内容： 講師及びアシスタント 3 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者合計 94 名

• 大阪大学ブリッジ講座（10 年目） 講師：大橋正幸

講座概要： 後期 15 回

実施場所： 大阪大学

結果： 単位取得者 21 名

• 京都大学ブリッジ講座（3 年目） 講師：小杉賢一朗

講座概要： 前期 15 回

実施場所： 京都大学
結果： 単位取得者 22 名

③ 学校・学生支援

- 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）
要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。
対象クラブ：7 クラブ
- 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
要請に基づき、他大学や他サークルの友人への PR 活動への支援を行った。
- 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成
学生リーグ主催の学生選手権、学生合宿は 2024 年夏および 2025 年春に実施された。

4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行った。

① 広報宣伝 PR 活動

- X(旧 Twitter)、facebook を通じた情報発信を行った。
- センター主催体験教室・講習会告知広告
「定年時代」9 月/3 月（東京）、「はいから Est」3 月（東京・神奈川）：39.6 万円
- その他の広報宣伝活動
プレスリリース配信：5 本

② プロモーション活動

- ネットゲーム環境として BBO に開発した JCBL 専用ルームの利用者拡大を図り、HP を通じた誘導を行った。

③ ウェブサイト運営

- 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的で HP の階層を検討した。

④ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布

- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。
- 普及委員会

柳澤彰子理事を委員長として以下の 6 名が委員として活動した。

委員：齋藤陽子、浅越ことみ、ロバート・ゲラー、寺本直志、緒方敏広、荒川聡一

定例委員会を 6 回開催した。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

2024 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

1. 国際競技会的主催（公益目的事業 3.1）

2024 年度は国際競技会を開催しなかった。

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

① 日本代表選抜

- 2025 年 APBF 選手権オープン、レディース、ミックス、シニアの各代表をそれぞれ選抜した。遠隔地からの参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

② 国際競技会派遣

- 第 16 回ワールドブリッジゲームズ

第 16 回ワールドブリッジゲームズが 10 月にアルゼンチンの香港で開催され、オープン、レディース、ミックス、シニアの各代表が参加した。

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、2024 年度は以下の事業を実施した。

① 世界同時大会への参加

- 開催中止

② WBF ユース支援同時大会への参加

- 開催中止

③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

IV. 収益事業等

1. 公認（収益事業等 1）

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	2024 年度 卓数	2023 年度 卓数
ナショナル	14	122	118
リジョナル	43	983.5	987
セクショナル	2,219	30,008	32,121.5
ローカル	116	588.75	697
CCG	1011	7271.75	7,824
IMP	282	1409	1,481
合計	3,685	40383	43,228.5

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：49,633 枚

2024 年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター：	3 名
プラチナライフマスター：	3 名
ゴールドライフマスター：	14 名
シルバーライフマスター：	40 名
シニアライフマスター：	68 名
ライフマスター：	77 名
シニアマスター：	85 名
ナショナルマスター：	80 名
マスター：	101 名
ジュニアマスター：	125 名

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松で地方クラブ会議を開催し意見交換を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営を行った。

② 競技会開催支援

地方リジョナル 3 競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

V. 法人・管理部門

1. 会員・会友

① 入退会の状況

会員／会友数(2025年3月31日現在)

会員資格	2025/3月	2024/3月	増減
正会員	29	34	△5
シニア正会員	84	86	△2
終身会員	64	69	△5
特別会員	7	7	0
名誉会員	0	0	0
小計	184	196	△12
A会友	1,257	1,504	△247
B会友	3,594	3,544	50
地方会友	724	745	△21
ジュニア	11	13	△2
終身会友	100	87	13
小計	5,686	5,893	△207
総計	5,870	6,089	△219
クラブ	72	75	△3

② 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報）隔月刊年6回奇数月1日に発行

部数：6,300部（1、2号）、6,100部（3～6号）

『JCBL HANDBOOK』

毎年5月1日発行、部数：6,500部

③ JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

④ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：2024年度入会対象（2024年4月1日～4月30日）

2025年度入会対象（2025年1月1日～3月31日）

- ・ 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費1年間無料

実施期間：2024年度無料対象（2024年4月1日～2024年12月31日）

2024年度および2025年度無料対象（2024年1月1日～3月31日）

2. 理事会・会員総会

(1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 94 回理事会 4 月 26 日 出席 9 名 欠席 3 名 監事出席 2 名	1. 第 93 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の退会について 3. 2023 年度事業報告書および決算報告書について 4. 次期役員立候補について 5. 第 13 回会員総会の招集について 6. 理事による利益相反取引の承認について 7. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 会員総会への 付議を決議 会員総会への 付議を決議 承認 了承及び承認
第 95 回理事会 5 月 25 日 出席 13 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 役員の互選について 2. 競技委員の選任について	可決 承認
第 96 回理事会 6 月 28 日 出席 13 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 95 回理事会議事録の承認について 2. 会員の退会について 3. 事業担当理事、グループ長、および各委員会委員について 4. 各委員会および事業部報告	可決 了承 承認 了承及び承認
第 97 回理事会 8 月 23 日 出席 14 名 監事出席 2 名	1. 第 96 回理事会議事録の承認について 2. 会員の逝去について 3. 年会費の見直しの件 4. JCBL の経営に関する提案 5. 普及委員会の件 6. 各委員会および事業部報告	可決 了承 承認 一部継続審議 了承及び承認
第 98 回理事会 10 月 25 日 出席 12 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 97 回理事会議事録の承認について 2. 会員の逝去について 3. 会員の退会について 4. JCBL の経営に関する提案 5. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承 継続審議 了承及び承認
第 99 回理事会 12 月 20 日 出席 11 名 欠席 2 名 監事出席 1 名	1. 第 98 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 会員の退会について 4. 2024 年度予算の件 5. JCBL の経営に関する提案の件 6. 公認クラブ規則の件 7. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承 継続審議 否決 了承 了承及び承認
第 100 回理事会 1 月 24 日 出席 13 名 監事出席 2 名	1. 第 99 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の退会について 3. 2025 年度予算の件 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 継続審議 了承及び承認
第 101 回理事会 3 月 28 日 出席 11 名 欠席 2 名	1. 第 100 回理事会議事録案の承認について 2. 正会員の申込について 3. 2025 年度予算案及び事業計画について 4. 2023 年度の寄附について	可決 承認 承認 承認

監事出席 2 名	5. 各委員会及び事業部報告	了承及び承認
----------	----------------	--------

(2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 13 回会員総会 5 月 25 日 総会構成員 189 名 出席 109 名 (委任状 83 名)	1. 2023 年度の公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について	承認
	2. 2024 年度の事業計画並びに予算案の報告について	了承
	3. 理事選任について	選任
	4. 監事選任について	選任

3. 組織運営

① 事業運営体制

- 各事業部から提出された予算案原案をもとに 12 月、1 月開催の理事会及び 2 月開催の企画委員会において予算案を検討した。2025 年度予算案及び事業計画を 3 月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会で予算案について検討を行い、3 月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改訂を行った。

② 事務局

- 2024 年 8 月より職員 1 名を採用した。

4. 常設委員会・特別委員会

① 企画委員会

- 2024 年 6 月 21 日開催の第 81 回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 吉田正（委員長）

（委員長が指名する委員）ロバート・ゲラー、高野英樹、寺本直志、仲村篤志、古田一雄、柳澤彰子

アドバイザー：宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、2024 年 7 月 10 日、8 月 14 日、9 月 11 日、10 月 9 日、11 月 13 日、12 月 12 日、2 月 12 日の合計 7 回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。

- 2025 年度予算案審議・事業計画書作成
- 会員および会友の競技会参加状況の確認および競技会活性化策の検討
- JTOS の運用状況の確認および検討
- その他、JCBL の運営全般に関わる事項

(1) 2025 年度予算案の審議については、予算全体の方針の審議、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明、および事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。

また、2025 年度事業計画書についても、滞りなく作成された。

(2) JTOS については現在の運用状況および課題の確認を行った上で、今後の長期安定性の確保をテーマとして検討した。

② センター協議委員会

- ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。

委員：浅越ことみ（委員長）、齋藤陽子（普及事業担当理事）、山田和彦（競技会事業担当理事）、高野英樹（事務局長）、仲村篤志（競技会事業部長）

- 首都圏ブリッジセンター側の代表者と相談し、必要に応じて委員会を開催している。適宜各委員会および理事会への連絡や要請などを行っている。
- 今年度に関しては、IMP 割引キャンペーン、普及活性化、およびコロナ対応を主に検討した。

③ 競技委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

④ 代表選抜委員会

- 国際競技会の日本代表の選抜方法及び代表選手への助成を検討する場として、以下のメンバーにより構成されている。

委員：橋本公二（委員長）、齋藤陽子、荒川聡一、高野英樹

- 今年度に関しては 2025APBF 選手権の代表選抜方法及び助成内について検討を行った。

⑤ 人事委員会

- 定例委員会を 2025 年 2 月 14 日に開催し、2024 年度の職員の評価、2025 年度の職員の年俸支給額などについて検討を行い、来年度の職位を決定した。
- 新規職員の募集を行い、2024 年 8 月より職員 1 名を採用した。